

# リカバリガイド

このたびは弊社の製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

## 目次

本書をお読みになる前に .....	2
1. 必要に応じてお読みください .....	4
ハードディスク構成 .....	4
リカバリ .....	5
セットアップ .....	8
2. 補足情報 .....	10
領域設定の変更 .....	10
ハードディスクをご購入時の状態に戻す .....	13

### 本書のバックアップについて

本書『リカバリガイド』は、ご購入時に C ドライブに格納されています。リカバリなどで C ドライブを削除した場合は、本書のデータも削除され、元に戻りません。事前にバックアップをすることをお勧めします。

このマニュアルは、改善のため変更することがあります。最新のマニュアルは、インターネット上のマニュアル (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual>) からご覧ください。



# 本書をお読みになる前に

## 本書の表記

本書の内容は 2011 年 3 月現在のものです。お問い合わせ先や URL などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

### ■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

### ■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをタップし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をタップする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にタップします。

### ■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

### ■本書に記載している仕様とお使いの機種との相違について

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種や OS 別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

### ■「ユーザーアカウント制御」ウィンドウについて

本書で説明している Windows の操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前に Windows が表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

### ■光学ドライブについて

本パソコンは、光学ドライブを搭載していません。別売の光学ドライブを接続してください。光学ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM53)」をお使いください。

## ■製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
STYLISTIC Q550/C	本パソコン／パソコン本体
Windows <sup>®</sup> 7 Professional 32 ビット版	Windows 7 / Windows
Windows <sup>®</sup> 7 Home Premium 32 ビット版	
Microsoft <sup>®</sup> Office Home and Business 2010	Office
Microsoft <sup>®</sup> Office Personal 2010	

## 商標および著作権について

---

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation および / またはその関連会社の商標です。  
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。  
その他の各製品は、各社の著作物です。

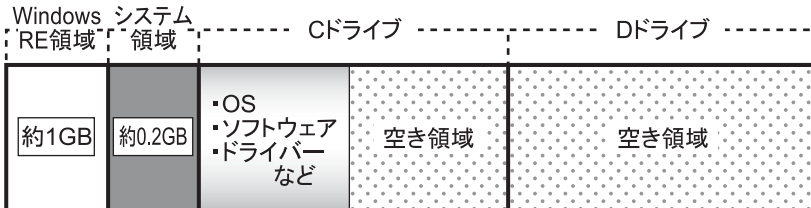
Copyright FUJITSU LIMITED 2011

# 1. 必要に応じてお読みください

## ハードディスク構成

ハードディスクは、システムが格納されている領域や、OS、ソフトウェアやデータなどを格納する C ドライブと D ドライブで構成されています。

### Windows 7 のハードディスク構成



#### POINT

- ▶ 「Windows RE 領域」に約 1GB、「システム領域」に約 0.2GB 使用しているため、「コンピューター」に表示されるハードディスクの容量は、「本体仕様」の記載よりも約 1.2GB 少なく表示されます。
- ▶ 「Windows RE 領域」と「システム領域」は、Windows からは見えない領域です。

「Windows RE 領域」には、次のデータが格納されています。

#### ● 診断プログラム

Windows が正常に起動できない場合に本パソコンを診断します。

「診断プログラム」については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

#### ● トラブル解決ナビ

リカバリの実行やハードウェアなどの診断をするソフトウェアです。リカバリについては、「リカバリ」(→ P.5) をご覧ください。

# リカバリ

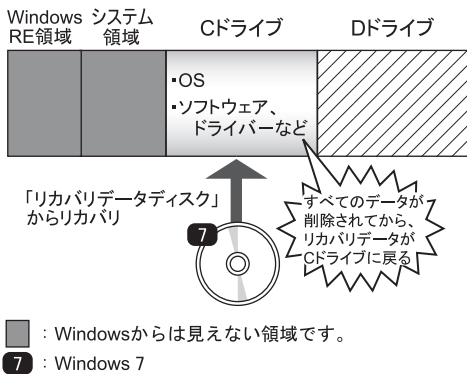
本パソコンの C ドライブを、ご購入時の状態に戻すリカバリの方法を説明します。  
Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、リカバリを行います。

## 重要

- ▶ ハードディスクを保守交換した場合は、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」(→ P.13) をご覧になり、C ドライブのみではなく、ハードディスクのすべてのデータをご購入時の状態に戻してください。  
なお、OS やドライバーなどがインストールされた状態のハードディスクに交換した場合は、リカバリを行ったりハードディスクをご購入時の状態に戻したりする必要はありません。

## リカバリの考え方

リカバリとは、C ドライブの OS、ドライバーなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態に戻す操作です。  
ハードディスクの領域は現在お使いの状態のまま、「リカバリデータディスク」のリカバリデータを使って、C ドライブのみご購入時の状態に戻します。C ドライブ以外のデータは変更されません。



## 注意事項

- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、リカバリを実行できません。  
また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合もリカバリを実行できません。  
その場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」(→ P.13) をご覧ください。
- リカバリを行うと、C ドライブのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- セキュリティチップ搭載機種でフォルダーやファイルの暗号化を行っている場合は、リカバリ前に復元用のバックアップをしてください。復元用のバックアップデータがないと、データが読み出せないことがあります。これによる損害などの責任は一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。  
詳しくは、インターネット上のマニュアル『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。
- パソコン本体に USB メモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器 (クレードル、光学ドライブを除く) を接続している場合は、必ず取り外してください。
- リカバリでは元に戻らないソフトウェアがあります。リカバリが終了してからインストールしてください。
- タッチパネルで操作します。あらかじめ、タップした位置と画面上のマウスポインターの位置を確認してください。
- リカバリには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

## リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の準備を行ってください。

### ■AC アダプタを接続する

リカバリを実行するときには、必ず AC アダプタを接続してください。

### ■光学ドライブを接続する

リカバリを実行するときには、必ず光学ドライブを接続してください。

### ■BIOS 設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の状態に戻します。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

### ■ディスクを用意する

- リカバリデータディスク

## リカバリを実行する

### 重要

- ▶ C ドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

- 1 Ctrl + Alt + Delete ボタンを押したまま、電源スイッチをスライドさせます。

アプリケーションメニューが表示されます。

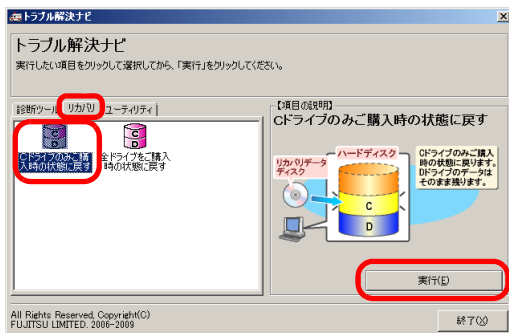
### POINT

- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- ▶ アプリケーションメニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。

- 2 「トラブル解決ナビ」をタップして選択し、もう一度タップします。

そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

- 3 「リカバリ」タブの「C ドライブのみご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をタップします。



「ご使用上の注意」が表示されます。

- 4** 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をタップし、「次へ」をタップします。
- 5** 表示されるメッセージに従って「リカバリデータディスク」をセットし、「OK」をタップします。  
「警告」画面が表示されます。
- 6** 「OK」をタップします。  
「リカバリ」画面が表示され、リカバリが始まります。  
リカバリが終了すると、「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されます。
- 7** 「完了」をタップします。  
本パソコンの電源が自動的に切れます。
- 8** 光学ドライブを取り外します。
- 9** 30 秒以上待ってから電源を入れます。
- 10** セットアップを行います。  
詳しくは、「セットアップ」(→P.8)をご覧ください。

以上でリカバリは終了です。

# セットアップ

---

## 注意事項

---

- セットアップする前に、必ず AC アダプタを接続してください。
- セットアップが完了（「必ず実行してください」を実行）するまでは、周辺機器（クレードルを除く）を接続しないでください。セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。
- セットアップ中は、電源を切らないでください。
- Windows セットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちに画面をタップすると、Windows セットアップが完全に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されてから操作してください。
- Windows セットアップが進められなくなった場合は、電源スイッチを4秒以上スライドさせて、本パソコンの電源を一度切り、セットアップをやり直してください。セットアップがやり直せない場合は、リカバリを行ってください。リカバリについては、「リカバリ」（→ P.5）をご覧ください。

## セットアップする

---

### 1 本パソコンの電源を入れます。

画面に「FUJITSU」ロゴが表示され、自己診断（POST）が始まります。

画面が表示されるまで、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。絶対に電源を切らずにそのままお待ちください。

自己診断（POST）が終わると「Windows のセットアップ」画面が表示されます。

### 2 メッセージに従って、画面をタップまたはソフトウェアキーボードで操作します。

途中で、ユーザー名、パスワード、およびコンピューター名を入力する画面が表示されます。

ソフトウェアキーボードが表示されていない場合は、入力部分をタップしてください。

入力可能な文字と文字数は、次のとおりです。

- ・ ユーザー名：12文字以内の半角英数字（a～z、A～Z、0～9）。数字は、英字と組み合わせて使用します。
- ・ パスワード：半角英数字（a～z、A～Z、0～9）。大文字、小文字は区別されます。
- ・ コンピューター名：ここでは変更せず、セットアップの終了後に変更してください。

Windows セットアップが完了すると、「必ず実行してください」ウィンドウが表示されます。

### 3 「必ず実行してください」ウィンドウの内容を確認し、「実行する」をタップします。

### 4 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をタップします。

最終設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

再起動メッセージが表示されるまで、キーを押したり、画面をタップしたりしないでください。

### 5 「OK」をタップします。

本パソコンが再起動し、パスワードの入力画面が表示されます。



**6** 設定したパスワードを入力し、「→」をタップします。

ソフトウェアキーボードが表示されていない場合は、画面左下のキーボードのアイコンをタップしてください。

Windows が起動します。

これで、セットアップが完了しました。Office 搭載モデルの場合は、添付の Office パッケージのディスクから、Office 製品をインストールしてください。

この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

## 2. 補足情報

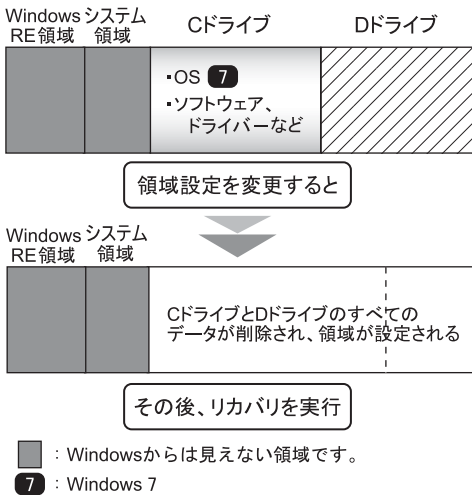
### 領域設定の変更

ハードディスクの C ドライブと D ドライブの領域を変更したり、1 区画にしたりできます。

#### 注意事項

- 領域設定の変更を行うと、C ドライブと D ドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。  
「Windows RE 領域」、「システム領域」のデータは削除されません。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、領域設定を変更できません。  
また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合も領域設定を変更できません。  
その場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」(→ P.13) をご覧ください。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外で、ドライブ構成を変更する場合、「Windows RE 領域」は削除しないでください。
- パソコン本体に USB メモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器 (クレードル、光学ドライブを除く) を接続している場合は、必ず取り外してください。
- タッチパネルで操作します。あらかじめ、タップした位置と画面上的のマウスポインターの位置を確認してください。

#### 領域設定の考え方



## 領域設定を変更する前の準備

領域設定を変更する前に、次の準備を行ってください。

### ■ACアダプタを接続する

領域設定を変更するときには、必ずACアダプタを接続してください。

### ■BIOS設定を購入時の状態に戻す

BIOSの設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の状態に戻します。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

## 領域設定を変更する

- 1 Ctrl + Alt + Delete ボタンを押したまま、電源スイッチをスライドさせます。

アプリケーションメニューが表示されます。

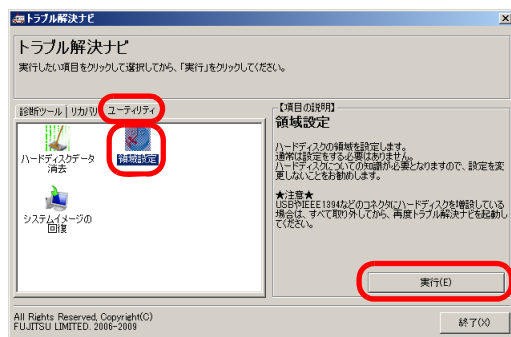
### POINT

- ▶起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- ▶アプリケーションメニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。

- 2 「トラブル解決ナビ」をタップして選択し、もう一度タップします。

そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

- 3 「ユーティリティ」タブの「領域設定」を選択し、「実行」をタップします。

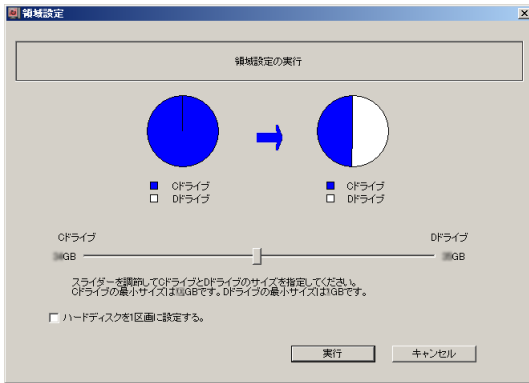


「ご使用上の注意」が表示されます。

- 4 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をタップし、「次へ」をタップします。

「領域設定の実行」画面が表示されます。

## 5 領域を設定します。



### ■ CドライブとDドライブ（2区画）を作成する場合

スライダーを左右にドラッグしてCドライブとDドライブの容量を指定します。容量は1GB単位で設定できます。

### ■ Cドライブのみ（1区画）を作成する場合

「ハードディスクを1区画に設定する。」にチェックを付けます。

## 6 「実行」をタップします。

確認画面が表示されます。

### 重要

▶ 領域設定を変更してなくても、「実行」をタップするとCドライブとDドライブのすべてのデータが削除されます。

## 7 「はい」をタップします。

領域の設定が始まります。

領域の設定が完了すると、「領域設定の完了」画面が表示されます。

## 8 「完了」をタップします。

「トラブル解決ナビ」が表示されます。

以上で領域設定の変更は終了です。この後リカバリを行う場合は、「リカバリ」(→P.5)をご覧ください。

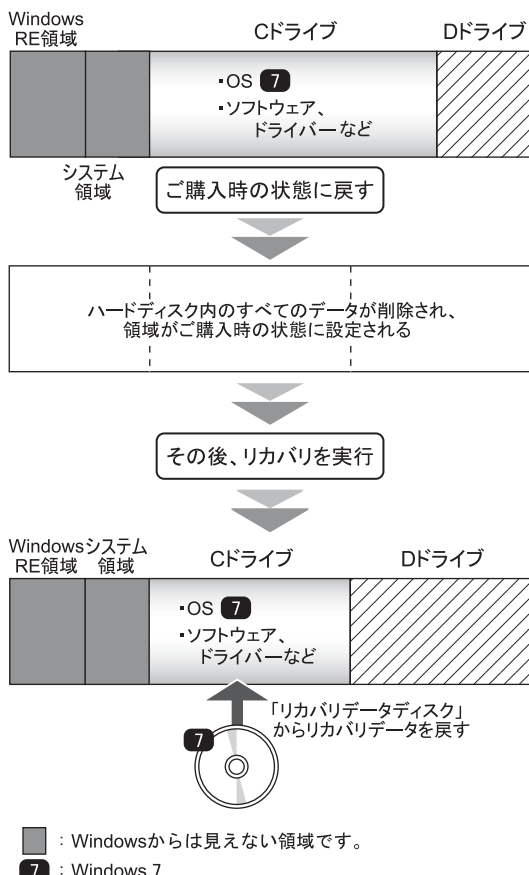
## ハードディスクをご購入時の状態に戻す

ドライブ構成を変更した場合などに、ディスクを使ってハードディスクをご購入時の状態に戻すことができます。

### 注意事項

- ハードディスクをご購入時の状態に戻すと、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- セキュリティチップ搭載機種でフォルダーやファイルの暗号化を行っている場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に復元用のバックアップをしてください。復元用のバックアップデータがないと、データが読み出せないことがあります。これによる損害などの責任は一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。詳しくは、インターネット上のマニュアル『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- パソコン本体に USB メモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器（クレードル、光学ドライブを除く）を接続している場合は、必ず取り外してください。
- ハードディスクをご購入時の状態に戻すを実行しても、元に戻らないソフトウェアがあります。ハードディスクをご購入時の状態に戻した後、インストールしてください。
- タッチパネルで操作します。あらかじめ、タップした位置と画面上のマウスポインターの位置を確認してください。
- ハードディスクをご購入時の状態に戻すには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

### ハードディスクをご購入時に戻すの考え方



## ハードディスクをご購入時の状態に戻す前の準備

---

ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に、次の準備を行ってください。

### ■AC アダプタを接続する

ハードディスクをご購入時の状態に戻すときには、必ず AC アダプタを接続してください。

### ■光学ドライブを接続する

ハードディスクをご購入時の状態に戻すときには、必ず光学ドライブを接続してください。

### ■BIOS 設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の状態に戻します。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

### ■ディスクを用意する

- トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
- リカバリデータディスク

## ハードディスクをご購入時の状態に戻す

---

### 重要

▶ ハードディスク内のすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

- 1 Ctrl + Alt + Delete ボタンを押したまま、電源スイッチをスライドさせます。

アプリケーションメニューが表示されます。

### POINT

▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

▶ アプリケーションメニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。

- 2 起動メニューのタブをタップします。

- 3 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」をセットします。

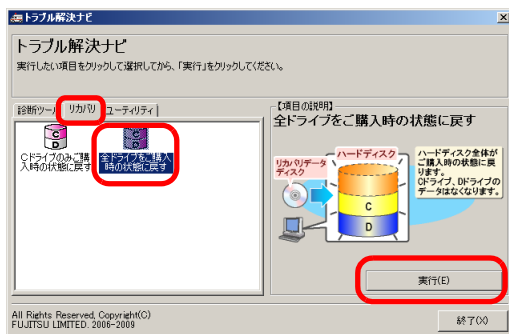
- 4 データの読み出しが終了し光学ドライブが停止してから、ディスクをセットした光学ドライブをタップします。

そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

### POINT

▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

5 「リカバリ」タブの「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をタップします。



「ご使用上の注意」が表示されます。

6 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をタップし、「次へ」をタップします。

7 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリを実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。

「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら手順8に進んでください。

8 ディスクを取り出し、「完了」をタップします。

本パソコンの電源が自動的に切れます。

9 光学ドライブを取り外してください。

10 30秒以上待ってから電源を入れます。

11 セットアップを行います。

詳しくは、「セットアップ」(→P.8)をご覧ください。

以上でハードディスクをご購入時に戻す操作は終了です。

---

STYLISTIC

リカバリガイド  
B6FJ-6681-01 Z0-00

発行日 2011年4月  
発行責任 富士通株式会社

- 
- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
  - このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
  - 無断転載を禁じます。